



まちの話題



アトラクションを楽しむ参加者たち



地域でおもてなし

令和元年度金ケ崎町敬老会

令和元年度金ケ崎町敬老会は9月7日から15日にかけて、町内6地区で開催されました。75歳以上の2,662人にこれまでの貢献に感謝し、健康長寿を祝いました。街地区では、米寿を迎えた人たちに記念品を贈呈したほか、金ケ崎保育園5歳児による「ソイヤ!まといぶし」、各自治会ごとに趣向を凝らした踊りや寸劇など地域性あふれるアトラクションで先輩たちをおもてなししました。参加者たちは手拍子をし、一緒に手を振って踊るなど楽しい時間を過ごしました。

地域の案内ボランティアに説明を受けながらまち歩きをする生徒たち



地域の未来を考える

金ケ崎中学校でまち歩き

金ケ崎中学校では9月19日、3年生を対象に6生活圏に分かれ、それぞれ自分が生活している地域を歩き、歴史や文化、産業などを調査するまち歩き学習を行いました。各地区生涯教育センターを拠点に、地域の魅力を歩いて体感。南方地区を調査した佐藤綾奈さんは「暮らしていても知らないことがまだまだあった。耕作放棄地など使われていない土地の活用方法を考えてみたい」と、調査後に班ごとで取り組んだ地域の未来をまとめる作業に、意欲的に取り組んでいました。

玉切りした丸太をみせる児童たち



森林を守る大切さを学ぶ

胆江地方育樹祭

胆江地方育樹祭は10月3日、西根二葉地内の町有林で行われました。育樹祭には西小学校の5、6年生23人が参加し、2人1組でのこぎりを使って丸太の玉切りを体験するなど、森林の育成に欠かせない間伐の大切さを学びました。6年生の齋藤勇貴くんは「切るのは大変だったが、とても達成感を感じた」と話しました。

家庭的な保育を目指して

あおぞら保育園が開所

NPO法人輝きは10月1日、小規模保育園「あおぞら保育園」を開所し、この日0～1歳児あわせて9人が入園しました。千葉政幸理事長は「家庭的な雰囲気の中で安全な保育事業を行い、良い保育園づくりに努めたい」とあいさつしました。また、あおぞら保育園の開所により町内の待機児童はゼロになりました。



入園式に臨む保護者と園児たち

和光地区を笑顔で駆け抜ける参加者たち



サイクリングで自然満喫

北上・金ケ崎夕焼けライド

北上・金ケ崎夕焼けライドは10月5日、町内西部地区と北部地区、北上市南部約35kmのコースで行われました。県内外から約30人が参加し、千貫石や和光地区などを巡り、町内の自然を満喫。コース途中では産直などの振る舞いもあり、参加者は「緑がキレイだし料理もおいしかった」と満足の表情を浮かべていました。

ブランド力向上へ

知事「金色の風」六原で刈り取り

岩手県オリジナル水稲品種「金色の風」の刈り取り行事が9月30日、町内六原の農業法人米夢理事・桑島健市さんの田んぼで行われました。達増知事が黄金色に輝く稲穂をコンバインで刈り取り、その後生産者らと金色の風のおにぎりを味わい交流しました。桑島さんは「今年も自信をもっておいしいコメができた」と笑顔で報告しました。



黄金色の「金色の風」をコンバインで刈り取る達増知事